株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当を行う場合　毎年9月30日 （その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。）
公告方法	電子公告の方法により行います。 ホームページアドレス　http://www.honyakuctr.com ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	電話　0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所　JASDAQ スタンダード
証券コード	2483

■ 住所変更等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■ 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

株式会社 翻訳センター
経営企画室
Tel：03-6369-9963
e-mail：info@honyakuctr.co.jp

ホームページのご案内
http://www.honyakuctr.com

トップページ

IR情報ページ

当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。

詳しくは ▶▶▶ 翻訳センター　検索

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C020493
www.fsc.org

UD FONT

Made in Fukushima
この印刷物は、福豊県内の印刷会社にデザイン制作及び製造を依頼し発行したものです

第 2 8 期
期末のご報告

2013年4月1日▶2014年3月31日

HONYAKU CENTER
HC通信
2014年3月期

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

株式会社 翻訳センター

ごあいさつ

2014年6月
代表取締役社長
東　郁男

日本企業のグローバル展開は、企業規模に関係なく、先進国・新興国問わず広がっており、日本政府もまた、「Visit Japan」「クールジャパン」の訴求など、対外的な発信を積極的に推し進めています。加えて最近では、TPPなどの国際的な経済連携協定の締結に向けた動きや、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定などもあり、翻訳・通訳をはじめとする外国語関連ニーズは確実に拡大しています。
翻訳センターは、産業翻訳業界のリーディングカンパニーとして、「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンの下、お客様の直面している課題を真摯に受けとめ、言葉に関するサービスを拡充し続けることを使命としております。
拡大する翻訳市場の中で、その需要に応えうるキャパシティを備えた会社として成長を続けてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当社の強み・特徴

- 日本最大かつ唯一の上場翻訳会社
- 言葉に関するワンストップサービス
- 業界最大級の登録者数
- 独自システムによる高い生産性と品質管理
- 4つの専門分野

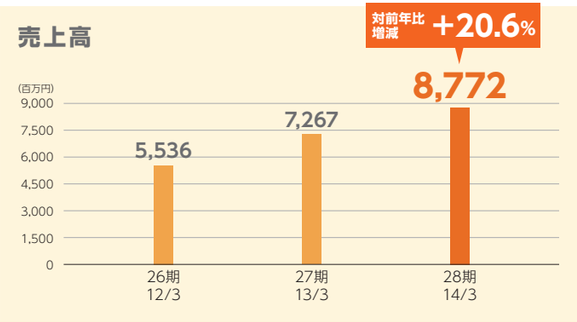
トップインタビュー

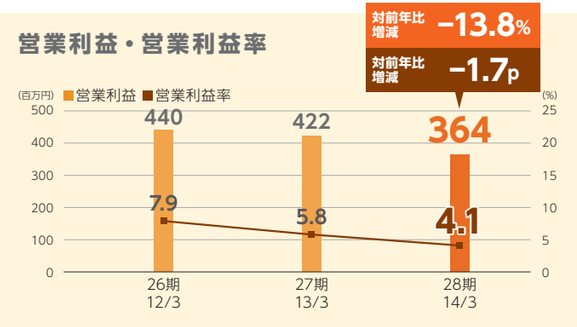
外国語関連ニーズが拡大する中、「言葉のコンシェルジュ」として幅広い需要に対応できる体制を整備しています。

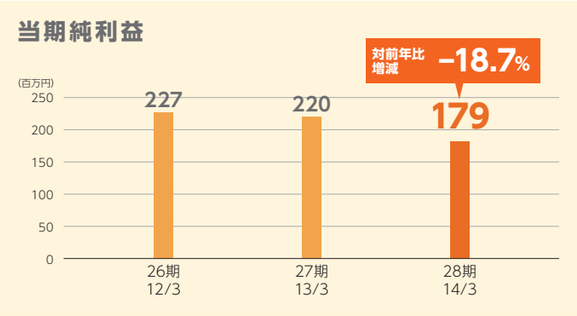
Q1 当期業績について教えてください。

A1 （株）アイ・エス・エスの業績寄与により増収も翻訳事業での人員増強が影響し減益となりました。

翻訳市場の拡大に伴い海外からの市場参入者も増えるなど、競合環境はますます厳しくなっています。そのような中、当社の当期業績は、医薬分野と金融・法務分野を中心に翻訳事業が堅調に推移したことに加え、グループ会社化した（株）アイ・エス・エスの業績が通期で寄与したことから、売上高は8,772百万円と増収となりました。しかしながら利益面では、今年2月に東京本部と（株）アイ・エス・エスをはじめとするグループ会社が同じビルに移転したことや中期経営計画に掲げた「専門性の強化」の一環で主に翻訳事業での人員増強を図ったことから、営業利益は364百万円、当期純利益は179百万円と減益となりました。

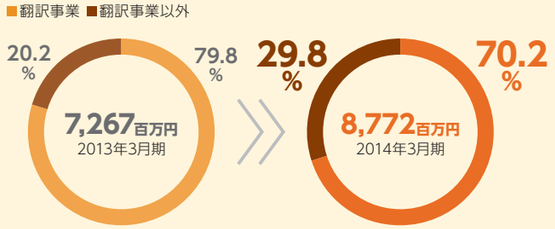




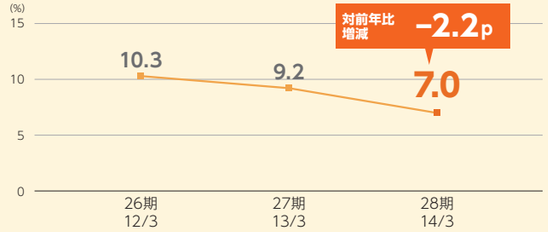


トップインタビュー

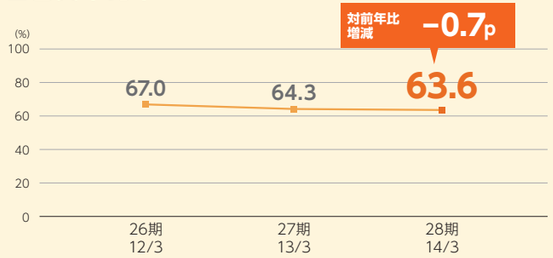
セグメント内訳推移



ROE



自己資本比率



Q2 中期経営計画の進捗について教えてください。

A2 翻訳センターグループとして、言葉に関する幅広い需要に対応できる体制を構築しました。

「事業領域の拡大」については、(株)アイ・エス・エスのグループ会社化により、言葉に関する幅広い需要に対応できる体制が構築できました。その結果、(株)アイ・エス・エスの主要得意先である企業の管理部門に対し翻訳サービスを提供する機会が増えるなど、クロスセリングが順調に進みました。シナジー効果は想像以上に表れていると認識しています。また、「専門性の強化」においては、昨年6月に(株)アイタスから譲り受けたローカライゼーション事業も順調に推移しており、今年4月より、事業展開をより明確にするためローカライゼーション推進部を「ローカライゼーション営業部」と名称変更しております。今後、このローカライゼーションを新規事業領域として育成してまいります。さらに「翻訳制作体制の増強」においては自社開発した『HC TraTool』を含む翻訳支援ツールの活用が進み、使用率は期初目標の40%を超える結果となりました。来期は50%を目標に、さらなる活用を目指してまいります。

Q3 今後の課題についてはどのように考えていますか。

A3 個別業界の景気動向に影響されない、強固なポートフォリオの確立を目指します。

安定した売上と利益確保のためには、個別業界の景気動向に大きく影響されることなく、翻訳事業の売上を達成していくことが重要だと考えています。例えば工業分野は自動車業界からの受注が約4割を占めていますが、今後の伸びが期待できるローカライゼーション等、自動車業界以外からの受注にも注力することで、分野内の売上構成における一業種依存からの脱却を図り、強固なポートフォリオの確立を目指してまいります。

Q3 最後に、株主の皆様に一言、お願いします。

A3 言葉に関するサービスを拡充し、世界のトップ10入りを目指します。

来期は第二次中期経営計画の最終年度にあたります。言葉に関するサービスの拡充と専門性強化を図り、世界の語学サービス会社ランキングでトップ10入りを目指してまいります。そして、安定的かつ継続的な配当実施と利益成長に応じた増配も目指してまいります。

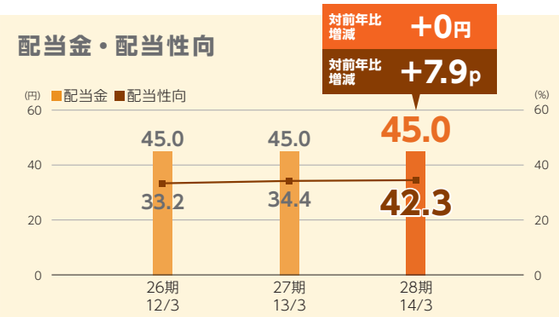
Topics

翻訳の国際規格策定に参加

翻訳サービスに関する「EN15038」という規格が多言語国家の多いヨーロッパでは制定されていますが、全世界共通で使用できる翻訳の規格の策定を求める声が年々高まってきています。そこでISOは「EN15038」をベースとした国際規格策定に動いており、当社はこの策定会議に日本代表の一員として参加しています。なお、今年の会議は6月21日〜27日にベルリンで開催されます。

国際規格の制定・導入により、翻訳会社間での競争はさらに激しさを増すことでしょう。しかし、この流れは、翻訳業界の成長に資するものであると捉えています。当社は日本の翻訳業界のリーディングカンパニーとして、自社の成長のみならず翻訳業界の底上げにも尽力してまいります。

配当金・配当性向



当社は2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行いました。
26期と27期の配当金につきましては当該株式分割後の基準で算定しています。

特集

潜入！翻訳の現場

翻訳センターでは、「翻訳プラットフォーム」を基盤に、品質、スピード、価格のベストバランスをご提案し、お客様の満足を最大化する翻訳サービスを提供しています。特許、医薬、工業、金融・法務という4つの専門分野と業界最大規模の総合力が「翻訳プラットフォーム」をより強固にしています。

コーディネータ

2

「工程設計」

条件に見合う最適な翻訳者を選定し、品質の安定化を図っています。

品質の安定と向上のためには綿密な工程管理が欠かせません。翻訳者に対してお客様が指定する用語、専門用語、書式などの仕様を説明するのも重要な仕事です。

ネイティブチェッカー

5

「品質チェック」

ネイティブスタッフが適切な訳語の選択など内容面をチェックします。

専門用語の確認や直訳では伝わらない表現を外国語圏の人が理解できる表現に改めるなど、内容面での入念なチェックを行います。

サービスフロー

1 ご相談・ご依頼
営業担当者が使用目的、仕様、予算、納期などの詳細なご要望をヒアリングし、お客様にとって最適なサービスをご提案します。

2 工程設計
各専門分野のコーディネータが「翻訳プラットフォーム」を通じて、ご依頼条件に見合う翻訳者を探し、作業環境の構築やスケジュールの作成など工程設計を行います。

3 翻訳
「HC TraTool」などの翻訳支援ツールを活用し、品質の安定と向上のために、過去に翻訳した文書やお客様指定の用語などを確認しながら翻訳を進めます。

4 レイアウト
さまざまな編集ソフトに精通したオペレータと呼ばれる制作担当者が、お客様の仕様に応じて翻訳文をレイアウトします。データ入力・図表作成など追加作業にも対応します。

5 品質チェック
熟練した校正者、専門スタッフ、ネイティブスタッフが連携し、翻訳支援ツールを活用しながら品質確保のための入念な校正を行います。

6 納品・アフターサービス
お客様のご指定の形式で翻訳文を納品します。さらなる品質向上に向けて、納品後の翻訳に対するご意見は、翻訳者にもフィードバックしています。

営業

1+6

「ご相談・ご依頼」「納品・アフターサービス」

お客様のご要望に基づき最適なサービスをご提案しています。

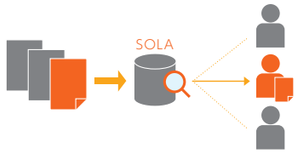
お客様のご要望を丁寧に細かくヒアリングし、最適な提案を行います。納品後、次の受注につながる情報収集も欠かせません。

翻訳プラットホーム

適切な翻訳者の選定を実現

基幹業務統合システム「SOLA」

受注・売上情報や進捗状況などのお客様情報と、専門分野、実績などの登録者情報が蓄積されたデータベース。使用目的、予算、納期などさまざまなご要望をこの「SOLA」を使って照合し、お客様にとって最適な翻訳者を選定します。



翻訳のスピードと品質向上に貢献

翻訳支援ツール「HC TraTool」

翻訳原稿と、過去に翻訳した文書・用語やお客様の指定用語を照合し、重複する文章や単語を機械的に処理し表現や用語を統一することで品質の安定と向上を図るツール。繰り返し出てくる文章には同じ翻訳文を流用するなどコスト低減と業務効率化も実現します。

校正

5

「品質チェック」

熟練した専門スタッフが、用語統一など表現面をチェックします。

お客様が指定した用語が使われているか、全体として表現の不整合はないかなど、表現面について入念な確認を行います。

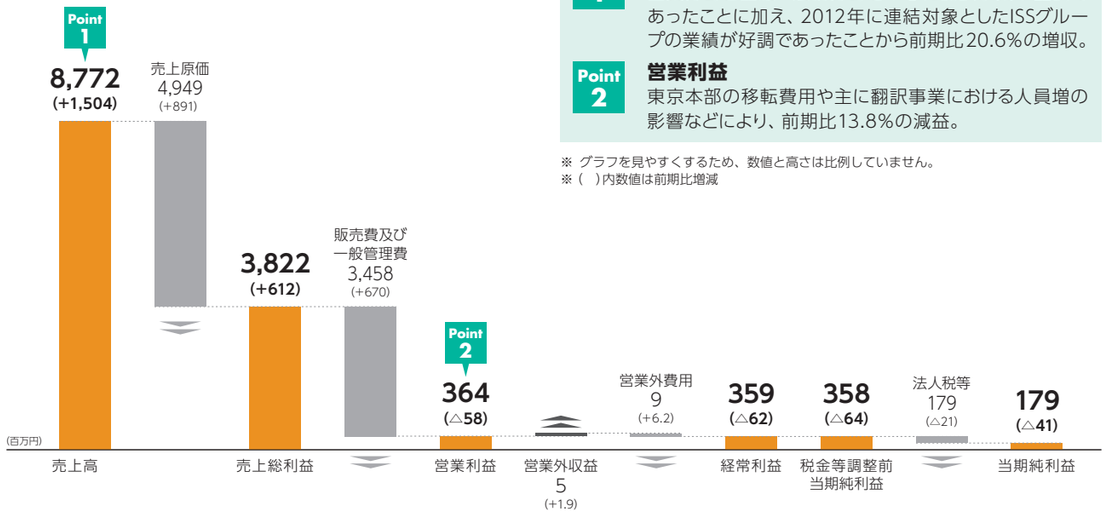
連結業績概況

連結損益計算書〈要旨〉
(2013.4.1～2014.03.31)

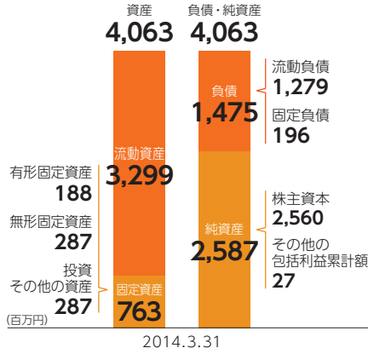
Point 1 **売上高**
医薬分野と金融・法務分野を中心に翻訳事業が堅調であったことに加え、2012年に連結対象としたISSグループの業績が好調であったことから前期比20.6%の増収。

Point 2 **営業利益**
東京本部の移転費用や主に翻訳事業における人員増の影響などにより、前期比13.8%の減益。

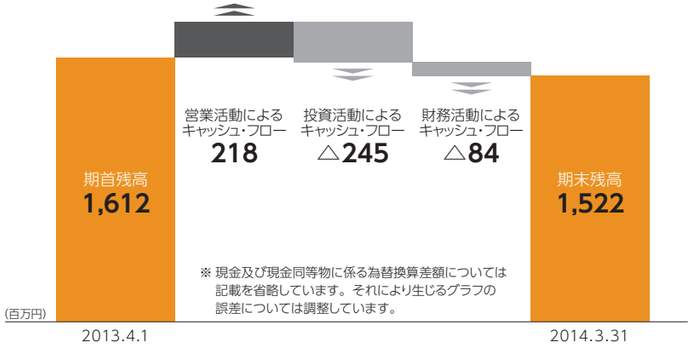
※ グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。
※ ( )内数値は前期比増減



連結貸借対照表〈要旨〉



連結キャッシュ・フロー計算書〈要旨〉

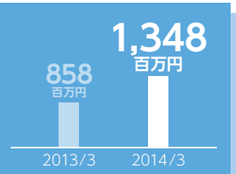


※ 現金及び現金同等物に係る為替換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

事業別概況

派遣事業

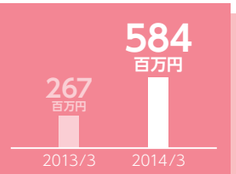
売上高
57.2%増



IT情報通信関連企業や各種金融機関、外資食品・飲食関連企業への通訳者・翻訳者派遣などが好調に推移し増収。

通訳事業

売上高
118.8%増



大手通信関連企業や製薬会社、ITシステム関連企業、外資食品・飲食関連企業からの受注が増加し増収。

語学教育事業

売上高
91.3%増

(株)アイ・エス・エス・インスティテュートの通訳者・翻訳者育成のレギュラーコースで計画を上回る受講申込みを確保し増収。

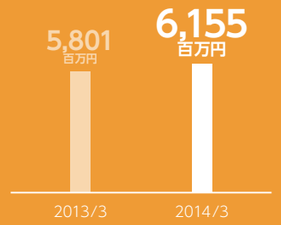
その他事業

売上高
104.5%増

昨年6月に横浜で開催した「第5回アフリカ開発会議」の全体運営担当などコンベンション事業が大きく寄与したほか、外国特許出願支援サービスも堅調に推移し増収。

翻訳事業

売上高
6.0%増



特許分野 企業の知的財産関連部署における取引拡大と新規顧客開拓が奏功し増収。

医薬分野 プリファードベンダー契約(※)に基づく受注の継続的な拡大に加え、新たなメガファーマとのプリファードベンダー契約の獲得や製薬会社からの新薬申請資料の受注が好調に推移したことなどから増収。

工業分野 ウェブサイト関連の大型プロジェクト案件や情報通信関連企業からの定期案件の獲得、(株)アイタスから譲受したローカライズ案件が順調に推移し増収。

金融・法務分野 前期より注力している企業の管理関連部署への営業活動が奏功したことに加え、保険会社や金融情報サービス企業からのスポット案件獲得や外資系金融機関からの受注増などにより増収。

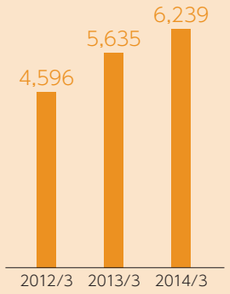
※ プリファードベンダー：企業が優秀な人的リソースの確保と費用低減を狙い、優先的に業務を委託する特定の調達先(ベンダー)

分野別売上高

(百万円)

特許分野	1,713	(+1.7%)
医薬分野	2,113	(+11.0%)
工業分野	1,799	(+3.3%)
金融・法務分野	529	(+11.9%)

登録者推移(のべ)



トピックス

株式の売出しについて

当社では、2013年4月1日付けで実施した単元株制度の採用など、投資家の皆さまにとって売買しやすい環境整備に取り組んでまいりましたが、この度、2014年3月の(株)ウィザスの当社株式売却を受け、当社普通株式の分布状況の改善と流動性の向上を目的とした株式の売出しを実施いたしました。また、外国語教育事業等の推進、キャリア実現支援に資する専門性の高い外国語教育サービスの提供において一定の成果を得られたことから、(株)ウィザスとの業務・資本提携も解消いたしました。なお、今回の売出しにより、2014年3月末現在の筆頭株主は(株)ウィザスからエムスリー(株)に異動しております。

東京本部の移転について

当社は業務拡大とグループ全体の業務効率性と組織機能性の向上を図るため、2014年2月17日に東京本部を移転いたしました。連結子会社の(株)アイ・エス・エス、(株)国際事務センター、(株)外国出願支援サービスも同時に移転し、さらなるグループ間のシナジー促進を図ってまいります。

[移転先]
東京都港区
三田3-13-12
三田MTビル

株主・投資家の皆さまとの良好な関係構築に向けた取り組み

当社では翻訳・通訳業界や当社事業をより深くご理解いただくために、定期的に会社説明会を開催し、事業内容や業績、今後の展望などについて代表取締役によるプレゼンテーションや質疑応答を実施しています。会社説明会の開催スケジュールは当社ウェブサイトにて告知しております。

[IRカレンダー]
http://www.honyakuctr.com/ir_008.html

株式の状況/会社概要

株式の状況 (2014.3.31現在)

発行可能株式総数	5,140,000株
発行済株式総数	1,684,500株 (自己株式はありません)
株主数	3,267名
単元株式数	100株

大株主(上位10名)

株主名	株式数(株)
エムスリー株式会社	345,000
東　郁男	74,700
RBC IST OMNIBUS 15.315 PCT NON LENDING ACCOUNT	59,700
池亀　秀雄	51,800
淺見　和宏	44,100
日本証券金融株式会社	38,700
翻訳センター従業員持株会	37,800
角田　輝久	27,700
二宮　俊一郎	25,600
礒野　由美子	24,400

株式分布状況

個人/その他	66.42%
その他国内法人	22.48%
外国人	6.31%
証券会社	2.35%
金融機関	2.44%

会社概要 (2014.3.31現在)

商号	株式会社翻訳センター
設立	1986年4月
代表者	東　郁男
本社所在地	大阪府大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
資本金	5億8,844万3,000円
従業員	392名(連結)
事業内容	翻訳サービス業
関係会社	株式会社国際事務センター HC Language Solutions, Inc. 北京東櫻花翻訳有限公司 株式会社外国出願支援サービス 株式会社アイ・エス・エス 株式会社アイ・エス・エス・インスティテュート 株式会社アイ・エス・エス・コンサルティング

役員 (2014.6.24現在)

代表取締役社長	東　郁男
取締役	二宮 俊一郎
取締役	淺見 和宏
取締役	中本 宏
取締役	楠見 賢二
常勤監査役	妙中 厚雄
監査役	松村 信夫
監査役	大西 耕太郎